

新疆ウイグル自治区におけるウイグル族の音楽状況

阿布都西庫尔 阿布都熱合曼*、森田 信一
(アブドゥシュクル アブドゥラフマン)

The Research of Uyghur Modern Music

Abudushukur ABUDURAHMAN*, Shinichi MORITA

キーワード：音楽文化、ウイグル、民族音楽、メディア

Key word : Uyghur, Uyghur, Uighur, world music, culture

はじめに

世界各地の文化は相互に影響し合い変化してきた。20世紀になると、交通手段の発達に加えて、各種通信やメディアの進歩も著しく、影響も変化もいっそう急速なものとなっている。音楽の文化的な研究においても、このような変化についての関心が高まっている。世界各地の民族音楽の研究においても、受け継がれた伝統的な音楽そのものを調査するだけでなく、他の地域から受けた影響によって変化していく音楽文化のダイナミックな姿も研究対象となっている。かつては継承されてきた伝統を静的に保持していると思われてきた民族音楽も、実際には常に少しずつ変化してきており、その変化の形や要因などが研究されるようになってきている。Nettlは、西洋音楽がどのように他の地域へ影響を与えたかという観点からの調査をまとめており、その地域は、中東、インド、南北アメリカ、東アジア、アフリカ、ロシア、オーストラリアなどに及んでいる(Nettl 1985)。地域によって影響の形は様々であり、「伝統音楽と西洋音楽の相互作用」の多様な形を提示している。また、世界のどの地域においても、メディアの影響は都市部に強く現われ、特にポピュラー音楽の流通は、メディアを通じて、国境を越えて影響を及ぼし合う。そしてこの流通によって音楽が均一化する反面、各地域独特の味付けも行われるという現象も見られる。Manuelは広い地域を調査し、ポピュラー音楽の状況についてのケーススタディーを報告している(Manuel 1989)。地域は、カリブとラテンアメリカ、アフリカ、ヨーロッパの一部、中東、東南アジア、中国、太平洋諸島などに及んでいる。現在の日常生活で親しまれている一般的な音楽の状況は、民族音楽やポピュラー音楽などが入り混じったものとなっており、ある地域の現在の音楽状況を把握するには、日常親しまれている音楽を総合的にとらえる必要がある。

このような視点から、本研究では、中華人民共和国の最も西に位置する新疆ウイグル自治区という、今まであまり取り上げられてこなかった地域における、現在の音楽の姿を把握

しようとした。この地域は、古くからシルクロードの交通路に位置し、多様な文化が往来したという地理的・歴史的特徴を持っている。民族は多様であるが、中でもウイグル族と漢族が多数を占めており、現在は中華人民共和国の広大な自治区となっている。このような、地理的、歴史的、政治的位置づけの中で、どのような音楽文化が受け継がれ、営まれているのか、また現在、どのような変化が起こりつつあるのか、これは大変興味深いばかりでなく、文化の変容の一事例としても重要である。

本研究では、新疆ウイグル自治区に居住する多彩な民族のうちで最も多数を占め、また古くからの住民であるウイグル民族に絞って、現在の音楽状況について調査を実施した。地域を限定しただけでは、そこに居住する多様な民族の生活習慣の違いを無視してしまう恐れがあるため、ウイグル民族に限定した。これによって同地区の音楽文化の現状の一側面を抽出し、音楽文化の変化の一つの形を明らかにすることを目的とした。

中華人民共和国新疆ウイグル自治区の住人は45%がウイグル族、43%が漢族で、この2民族が大多数を占める。その他にもカザフ族、回族、タジク族、ケルゲス族、ウズベク族、ロシア人など、多くの人種が居住している(中国国务院報道弁公室 2003)。今回の調査対象であるウイグル族の分布を見ると、天山山脈の南のオアシス、湖南省桃源県、常德県に及び、他にもカザフスタン、ケルゲズスタン、ウズベキスタンなどの中央アジアにも居住している。これは、古い時代以来の多様な民族移動と、国家の興亡、そして近代の国家成立に由来する結果であろう。ウイグル語はアルタイ語系の突厥語派に属し、アラビア文字を表意文字としている。宗教的には、10世紀以来、スーニ派のイスラム教を信仰している。現在の中華人民共和国新疆ウイグル自治区におけるウイグル文化は、中国文化及び近隣の国々との交流が中心であり、西側の文化は入りにくい状況にある。しかし、80年代以降の中華人民共和国の改革開放によって、他の地域との交流も増えてきている(田畑 2001)。

ウイグルの伝統的な音楽では、ウイグル12ムカーム(注1)

* 新疆師範大学音楽学院

が良く知られている (注2) (綾部 2000)。ムカームの教育は民間の伝承に加えて、音楽専門学校などの教育機関でも行われている。ムカームの演奏は、結婚式やその他の儀式などで行われるが、親しい人が集まった場面でもその一部を歌ったり演奏することがある。

ウイグルの現代の音楽状況は、ムカームを始めとした伝統的な民族音楽があり、大衆に親しまれているが、中国政府の改革開放政策が実行された1980年代以降、政治、経済生活、情報手段の変化とともに、ここにも新しい変化が起っている。従来、西のトルコ、南のインド、パキスタン、そして北の旧ソ連など、隣接する文化の影響が主であったが、より範囲が広がっている。ヨーロッパ、アメリカ、日本など、先進国の音楽も若者たちの興味を引くようになり、バンドのような演奏の形も生まれた。情報手段も、テレビやラジオのみではなく、海外から輸入されるビデオテープ、CD、DVD、ビデオCD (VCD) やインターネットなどに広がっている。また、電子オルガンを始めとする電子楽器やコンピュータの音楽用ソフトウェアなども利用されるようになってきた。そして、このような変化はウイグル民族の伝統や教育にまで影響を与えている。こういった新しい動きの中で、ウイグル音楽はどのように変わり始めているのだろうか。現在の状況とその移り変わりをより詳しく把握するため、いろいろな角度からの質問項目によるアンケート調査を実施した。新疆ウイグル自治区は、多くの民族で構成されているが、ウイグル族と漢族が多数を占めている。今回の調査では、民族による傾向の差があることを考慮して、ウイグル族を対象とした。地域として、カシュガル市を選んだが、これはカシュガル市の住民のほとんどがウイグル族で占められている町であるためである。このアンケートの結果を考察することによって、ウイグル民族の音楽の現在の姿を捉える事ができると思われる。

調査の実施と検討

上に見てきたように、現在の新疆ウイグル自治区では、従来の隣接地域からの影響に加えて、80年代の改革開放政策後は、世界の広い地域との情報の交流が見られ、音楽状況の変化も進んでいる。そこで、同地区における現状を知るために、特にウイグル族に限定し、その音楽意識、情報手段、音楽環境や音楽教育環境についてアンケート調査を実施した。また地域は、広大な同地区の中でもウイグル族の多く居住するカシュガル市に絞った。

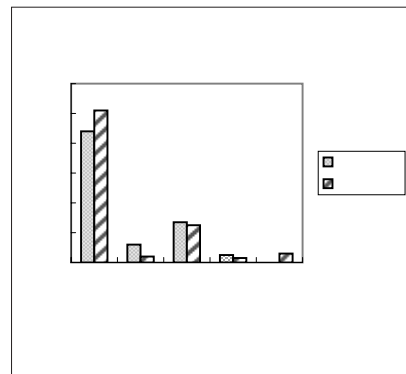
2003年7月、新疆ウイグル自治区の中でウイグル族が多く住む都市カシュガルで、10代から60代までのウイグル族250名を対象にアンケートを行い、回答を得た (回収率100%)。10代、20代、30代、40代、及び50代以上について、各50名 (男性25名、女性25名) を調査対象とした。

アンケートの内容は以下の質問 ~ XIIである。以下、質問項目と回答の集計と、グラフを示し検討する。なお、選択項目は、複数選択を可とした。

質問 いつもどんな音楽を聴きますか？ (いくつでも選んでください。)
 A. 伝統音楽 B. クラシック C. ポピュラー D. ジャズ
 E. その他 ()

この質問に対して、表、図のような結果が得られた。これを見ると、伝統音楽を聴いている人が、男性で67%、女性で73%と、最も多い。次はポピュラー音楽を聴いている人だが、10代から30代が多い。クラシックは各年齢層に少数存在している。ジャズは主に10代と20代に限られている。

	4	5	6	7	8		4	5	6	7	8
S#	S(%	*	%	#	S#	S(#	+	S)
%#	S)	*	'	%	#	%#	S*	&	S#	%	#
&#	S'	S	S#	S	#	&#	%&	S	'	#	#
'#	%&	%	'	#	#	'#	%&	&	S	#	#
(#	%&	#	%	#	#	(#	%&	'	S	#	#
	++	S%	%&	(#		S#%	'	%&	()
	S, #	S,	(%	+)					



この結果を考察してみよう。「ウイグル族の中で子どもは歩きが始まると同時に踊りができる、話ができるようになると同時に皆歌を歌える」という諺がある。ウイグルの母親は小さい時から伝統的な歌を聴かせながら子どもを育てている。伝統音楽はウイグル族の生活の中にあふれている。各家庭での小規模なパーティーから大規模なお祭りまで、伝統音楽なしでは盛り上がらない。最近、若者たちのパーティーではディスコなどの現代音楽も流行しているようであるが、伝統音楽も全く排除されてはいない。このようなことから、アンケート結果に見るように、伝統音楽を聴く人の数が多い結果になっていると考えられる。

学校などの音楽教育現場では簡単な楽譜が使われているが、あまり複雑なものは教えられていない。クラシック音楽やポピュラー音楽の知識は音楽専門学校でなければ学ぶことができない。このような理由からポピュラー音楽やクラシック音楽が急速に普及するような状況には到っていない。

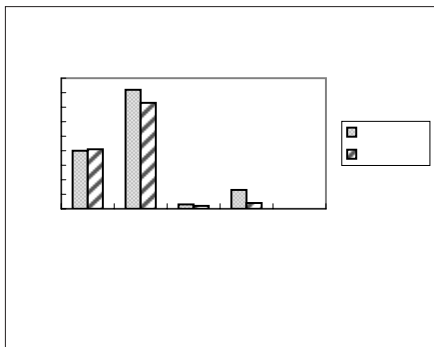
いろいろなメディアで聴くことのできる音楽も伝統音楽が最も多く、外国の音楽はあまり流れていない。ウイグルでは貧富の差が激しく、高価な外国の楽器やテープなどを買える人は多くない反面、伝統音楽に関するものは安価に手に入るという市場の現状もある。しかし、若者の間で諸外国からの影響によるポピュラーの要素が好まれるようになってきている事も無視できない。

質問 音楽はいつも何から聴きますか？

- A.ラジオ B.テレビ C.映画 D.インターネット E.その他
()

この質問に対し、表、図のような結果が得られた。
音楽を聴くメディアとしてはテレビが多く、次にラジオとなっている。

	4	5	6	7	8		4	5	6	7	8
S#	%	S+	#	%	#	S#)	S#	#	#	#
%#	*	S'	#)	#	%#	*	S%	%	'	#
&#	,	S)	S	&	#	&#	S%	S(#	#	#
' #	*	S*	S	S	#	' #	+	S*	#	#	#
(#	S(S*	S	S	#	(#	+	S	#	#	#
' #	+	%	&	S&	#	' #	S	*&	%	'	#
	+S	S((S*	#						



1980年代後半からウイグルの経済状況が段々良くなるにつれて、テレビを所有する家庭が多くなってきた。したがって、以前はラジオでしか聴けなかった音楽もテレビを通じて楽しむことが普通となっている。それに現在、中国ではケーブルテレビが普及し、ローカルな番組だけでなく、中央電視台や新疆電視台などのテレビ番組を、全国で同じ時間帯に見ることが可能となった。さらにウイグル語で放送されるテレビチャンネルの数も増えてきた。そこではウイグル音楽に歌、舞踊などを組み合わせた番組が多くなっており、映像を伴って音楽を聴くことが日常化している。新疆電視台など各放送機関は多様な芸能番組を作ることに意欲を燃やしており、ますますテレビで音楽を楽しむ事が一般化してきている。

次に映画、インターネット、その他の媒体から音楽を聴く人の数が少ない理由を考えてみたい。まず最近の映画では、ウイグル族の生活を描いた映画はとても少なくなっている。以前有名だった唯一の天山制片会社は不景気のため倒産し、音声の吹き替え業務のみが残っている。ウイグル語のVCDを作る自営会社も映画を作っているが、音楽、映像とも質が悪いため、あまり人気がない。大部分の人は外国の映画を好むが、その映画の音楽には、まだまだ興味を持っていない。最近ウイグル語のウェブサイトが徐々に増えてきて、様々な音楽を提供しているが、ウイグル地区におけるコンピュータの普及率はまだまだ多いとは言えず、利用できる人の数は多くない。場所によってはインターネットカフェのようなものも徐々に設置されてきているが、利用者の数はそれほど多くなく、主に20代の若者が中心である。以上インターネットで音楽を

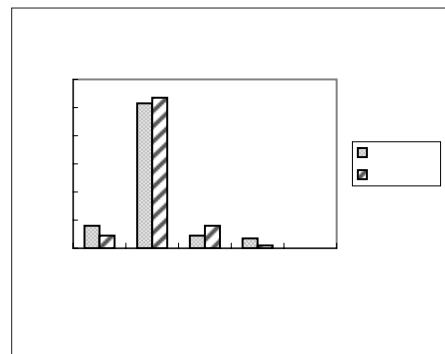
聴く層が、20代から30代に見られるのはそのような状況の現れであると考えられる。

質問 音楽はどこで聴きますか？

- A. レストラン B. 家庭 C. お祭り等 D. 儀式 E. その他
()

この質問に対し、表、図のような結果が得られた。

	4	5	6	7	8		4	5	6	7	8
S#	%	S*	(S	#	S#	%	%	%	#	#
%#	%	%#	&	S	#	%#	(S*	*	S	#
&#	*	%&	S	'	#	&#	S	%&	&	#	#
' #	&	S	#	S	#	' #	#	%&	%	S	#
(#	%	%	#	#	#	(#	S	%	%	#	#
	S)	S#&	,	*	#		,	S#*	S)	%	#
	%	%#	%	,	#						



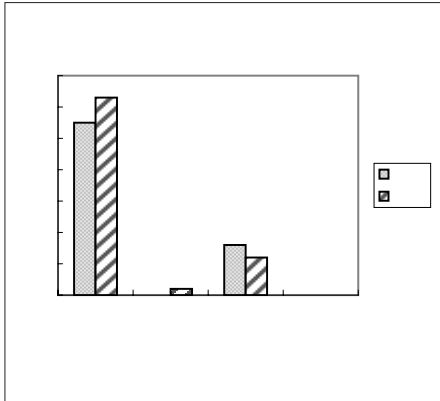
これによると、音楽を聴く場所は家庭がいちばん多いことがわかる。ウイグル族の社会生活から見ると、祭りや儀式が人々の最も多く集まる場所であり、音楽の種類も多い。例えば、ウイグル族の結婚式では、およそ1000人前後のお客さんが招待され、音楽を聞きながら歌ったり踊ったりして結婚式を盛り上げる習慣がある。ウイグルの伝統音楽もそのお祭りや儀式で発達してきた。しかしアンケートの結果では、祭りや儀式と答えた人は少ない。その理由として考えられるのは、アンケート調査の質問に対し、回答者はその祭りや儀式という言葉、政治的な行事と勘違いしてしまい、伝統的で庶民的な生活の中にある祭りや儀式とは考えなかったのだと思われる。

質問 音楽の知識を習った事がありますか？

- A. はい
どこで、習いましたか。
(1)学校 (2)音楽専門 (3)家庭 (4)その他 ()
B. いいえ

この質問に対し、表、図のような結果が得られた。

S#	S%	#	'	#	S#	S(#	%	#		
%#	S(#	%	#	%#	S(%	&	#		
&#	S#	#	%	#	&#	S)	#	(#		
' #	,	#	&	#	' #	,	#	S	#		
(#	,	#	(#	(#	+	#	S	#		
	((#	S)	#)	&	%	S%	#		



ここで音楽の学習の場所を「学校」と答えた人が多い。ウイグルで音楽が正式にウイグルの学校教育へ科目として入れられたのは1980年代以降のことである。それ以前の音楽の授業では、歌が上手な先生が子どもと一緒に歌う程度で、楽譜などによる理論的な音楽の学習というものには存在していなかった。1980年代以降は専門の音楽教育機関を卒業し、音楽教育の資格を持った人が授業をするようになった。最初は芸術学院を卒業した人や民間芸人等を音楽教員として採用していたが、現在では音楽教育を専門とした大学卒業者を教員として採用するようになってきた。これにより徐々に教員のレベルも上がったし、数も多くなってきた。1980年代始めは音楽教員の数が少なかったため、小学校と中学校だけで音楽授業が行われた。しかし近年、音楽教員が増えたこともあり、高校でも音楽授業が行われるようになってきている。

音楽を学んだ経験がない人は男性、女性あわせて95人で、総人数の38%を示している。これらの人達は学校教育を受けていないか、もしくは高齢者である。その他、今回調査の対象としたカシュガル市には熱心なイスラム教徒が多い。イスラムの教えにより音楽を学ぶべきではないという意識を強く持っている人もいて、このような人もここに含まれていることが考えられる。家庭で音楽を学んだ経験がある人は学校より少ないが、これらの多くは家族、親族から学んだ人たちであろう。他に、経済状況が良い家庭や音楽教育を重視している家庭では、子どもの興味にあわせて家庭教師を雇うとか、音楽関係の塾に行かせる人が増えつつある。今回の結果で、専門学校で学んだ人は20代に2人あった。以前は音楽専門学校を卒業した人は皆無であった。音楽教員の求人が増えているため、以前と比べて音楽専門学校卒の人が出てきていることがわかる。

質問 楽器を弾く事ができますか？
はい
どんな楽器ですか？
A. ドウッタ B. ラワーブ C. ピアノ D. ギター
E. その他 ()
いいえ

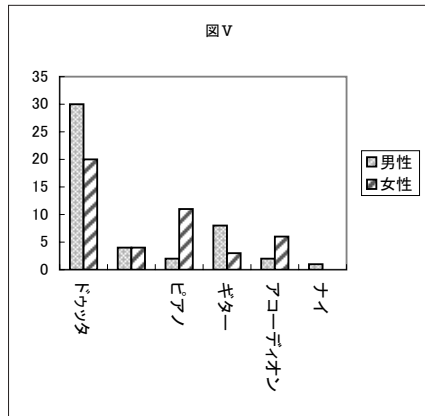
この質問に対し、表 , 図 のような結果が得られた。

表V

性別	A	B	C	D	E	性別	A	B	C	D	E
男性	3	0	0	2	0	女性	4	0	1	0	0
10代	3	0	0	2	0	10代	4	0	1	0	0
20代	5	0	2	1	0	20代	2	3	8	2	1
30代	8	2	0	5	0	30代	6	0	2	1	1
40代	8	0	0	0	1 ナイ	40代	5	1	0	0	2
50代～	6	2	0	0	1 アコーディオン	50代～	3	0	0	0	2
男性計	30	4	2	8	2	女性計	20	4	11	3	6

弾けない

80	76
----	----



楽器を演奏できる人の中で民族楽器を演奏できる人が63%を占め、他の楽器は37%となっている。民族楽器の中でもドウッタを演奏できる人が最も多い。ドウッタは2弦の楽器で、演奏が比較的簡単である。ドウッタさえあれば、どんな民謡でも伴奏しながら歌うことができる。ウイグル族の家庭でのパーティーに欠かせない楽器のひとつである。この楽器は装飾品としても人気があり、多くのウイグル族の家の壁に飾ってある。それに値段も安いので、この楽器が最も普及しており、弾ける人の数も最も多いのだろう。ピアノ、ギター、アコーディオンなどの外来楽器を弾ける人は33%になるが、少しずつ以前より増えているように感じられる。ピアノは現代楽器の象徴とも考えられ、経済状態の良い家庭が所持するようになっている。しかも20代を中心とした若者の愛好者が多い。最近はギターも若者の中で人気があり、大学生がよく使う楽器である。学生の集まりや同窓会などで、伝統音楽や現代の音楽を、ギターを弾きながら歌うことも普通になってきている。アコーディオンはピアノより安いので、ピアノを買えない人達でもこの楽器を利用している。特によく使われる場所は結婚式で、人々はアコーディオンの演奏に合わせて歌いながら花嫁を迎えに行く。従来は花嫁を迎えに行く時は伝統楽器を弾くのが普通だったが、専門家を頼むのにお金がかかることもあり、徐々にアコーディオンに変わってきている。これは旧ソ連の頃からの文化的影響と考えられる。これらの外来楽器がいつからどのようにウイグル族の生活に入ってきたのか正確な資料はないが、今日では専門学校で教えられている他、民間の音楽教室も増えている。豊かな地域の小学校、中学校での音楽教育ではこれらの楽器が使われて

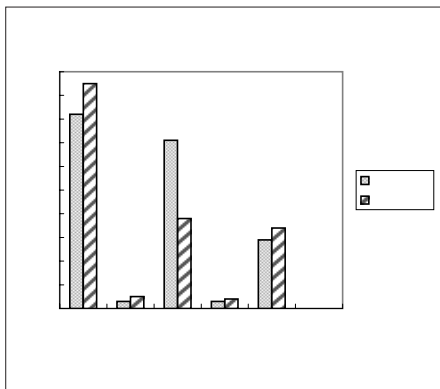
いる。今後は伝統楽器に加え、ピアノやアコーディオンなどの楽器を弾ける人の数が増えていくことが予想される。楽器を弾けない人は62.4%を占め、回答者の半数以上であるが、この人達は楽器に対する趣味がないか、経済的または宗教的な理由が考えられる。

質問 音楽を再生するどんな機械を持っていますか？

- A. カセットレコーダ B. CD C. VCD D. DVD
E. ビデオ F. その他 ()

この質問に対し、表、図のような結果が得られた。

	4	5	6	7	8	9		4	5	6	7	8	9
S#	S&	S	SS	#	S#	#S#	S(#	+	S)		
%#	S&	#	S	%	'	%#	%#	%	S	S	S%		
&#	%%	%	S*	S	S#	#&#	S+	S)	#	*		
' #	S+	#	S%	#	%	#' #	%#	%	(%	*		
(#	S)	#	S%	#	&	#(#	%%	#	(#	%		
+%	&	*S	&	%	#		,	((&+	'	&	
S**	+	S#	*)&									



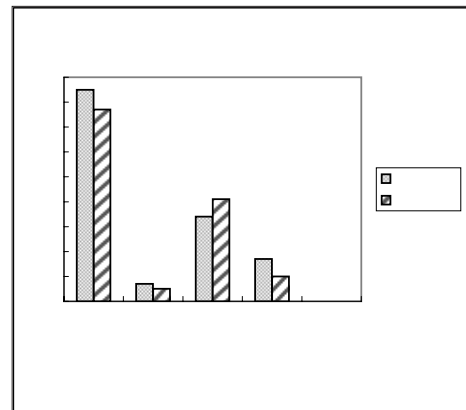
A V機器の中ではカセットレコーダが最も多いが、これに続いてVCD (ビデオCD) が多くなっている。現代社会ではA V機器は、様々な音楽を聴くための重要な役割を果たしている。これらの影響で、ウイグルの音楽生活にも大きな変化が現れている。1980年代まで、ウイグル族の所有する機器はテープレコーダやビデオに限られていた。90年代に入ってから、中国の改革開放政策の影響や技術の発達によって、VCD、CD、DVDなどデジタルA V機器がウイグル族の生活の中に入り込むようになった。最初は値段が高かったが、最近これらの機器は安くなってきて、家庭でも使われるようになった。90年後半はウイグル族が作ったレコード会社も多くなった。これらの会社では大衆が好む歌手や民間の芸人による様々な楽曲をどんどん販売している。A V機器の中でウイグル族に最も人気があるのはVCDである。映像をみながら音楽を聴く人々は、ビデオテープよりもVCDの画質が良いことや操作が簡単であることからこれを愛用している。アンケート結果でカセットレコーダが一番多かった理由は、ウイグルの音楽、歌などの種類において、まだまだテープメディアが多いことやコストが安いことが考えられる。現在ウイグルでDVDを作る会社は殆どないが、VCDよりさらに画質音質が良いので、外国から輸入したDVDを所有する家庭も一部にみられる。今後はDVDがより普及する事が予想される。

質問 演奏会に行くチャンスがあればどんな演奏会を優先しますか？

- A. 伝統音楽演奏会 B. クラシック音楽演奏会
C. ポピュラー D. いろいろ音楽ジャンルがある音楽演奏会
E. その他 ()

この質問に対し、表、図のような結果が得られた。

	4	5	6	7	8		4	5	6	7	8
S#	S'	%	.	%	#	S#	SS	%	S%	#	#
%#	S&	S	S&	%	#	%#	S'	&	*)	#
&#	S*	&)	(#	&#	SS	#	S&	&	#
' #	S+	#	'	#	' #	S+	#	+	S	#	
(#	%&	S	%	'	#	(#	%&	#	S	#	#
	+(*	&	S*	#		**	('S	S#	#
	S)%	S%	*(%	#						



演奏会の中で伝統音楽の演奏会を好む人が一番多い。年齢別にみるとクラシックは30代までで、ポピュラーの演奏会に行きたいという人は40代以上は少なく、10代から30代が圧倒的に多い。全体としては伝統音楽の演奏会に行きたいという人の数が最も多い。しかし実際にはウイグル族のお祭りやパーティーで伝統音楽が演奏され親しまれているので、この習慣に慣れている人々は、伝統音楽が特別に舞台上で演奏されることにはあまり関心を持っていない。現代ウイグル社会ではポピュラー音楽の演奏会の数が多く、中でもウイグル族アーティストが出演する演奏会は人気がある。これはポピュラーと言っても、ウイグル音楽が現代化した新しいスタイルの音楽であり、日本の歌謡曲や演歌、J-POPなどに相当するものである。外国のポピュラー音楽演奏会は収益が少ないため、殆ど行われていない。しかし最近、ウズベキスタンやカザフスタンなど中央アジアの国々との友好関係の改善や交通手段の便利さに伴い、これらの国々のポピュラー音楽のアーティストが安い値段で演奏会を開いている。これらの文化はウイグルの伝統文化に近いので、大変人気がある。他に、クラシック音楽の演奏会も行われているが、多くの人々はこれにはあまり興味を持たないため、たとえチケットを無料で配っても行く人が多くないのが現状である。

化の発展が得られるだろうと考えている。しかし多くのウイグル族は、自分の民族の伝統文化をいつまでも大切に続けたいという意識の方が強いので、子どもたちにも伝統音楽を教えることを第一とする人が多いようである。しかし、ウイグル伝統音楽を学校教育へ取り入れることは難しく、学校の音楽教育では教えられておらず、学校教育への不満が多く寄せられている。この問題について大学などの研究機関で検討されているが、まだ適切な教育方法やカリキュラムが開発されていない。民族音楽を教える塾などもない。こういった理由で伝統音楽を正式に学ぶ子どもも少なくなっている。将来、次世代に伝わるべき伝統音楽が消失する恐れもあると心配されている。

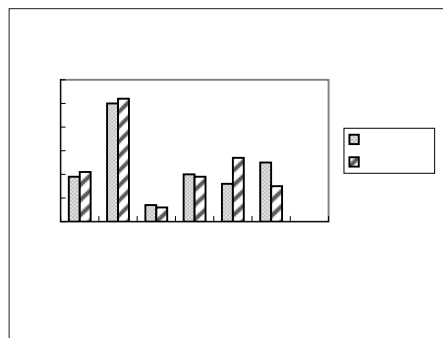
クラシック音楽については情報が少ないので、教育内容も不足し、多くの人々はクラシック音楽を知らない。それで子ども達に教えるべきだと思っている人も少ないと考えられる。

質問 楽器を習う場合、どんな楽器を習いたいですか？
A・電子ピアノ B・ドゥッタ C・ゲジャク D・ラワーブ E・ピアノ F・ギター G・その他 ()

この質問に対し、表、図のような結果が得られた。

習いたい楽器としては伝統楽器が最も多く、ドゥッタ、ラワーブ、ゲジャク、合わせて155人である。外来楽器はピアノ、電子ピアノ、ギター、合わせて123人である。

	4	5	6	7	8	9	:		4	5	6	7	8	9	:
S#	&	+	#	%	&	S#	#	S#	+	&	#	S	+	'	#
%#	*	(&)	&	#	%#)	S#	S	&)	*	#	
&#	'	S%	S	'	(#	&#	%	SS	S	'	*	S	#	
'#	S	S	#	&	'	%	#	S	S)	'	%	#		
(#	'	SS	&	(S	#	#	(#	S	S	&	(%	S	#
	S	(#	*	%#	S)	%	#	%\$	(%)	S	%	S	(#
	'#	S#%	S&	&	'&	'#	#								



前に述べたように、ドゥッタは伝統的な楽器の中でも弾ける人の数が多く、人気も高い。今回の結果から伝統的な楽器を習うことを希望する人の数は155人、外来楽器を習う希望者数は123人とあまり差がないことから、伝統楽器のみならず、時代の変化とともに外来楽器にも関心が高まっていることがわかる。10代と20代では電子ピアノに人気がある。また、10代から30代までを中心に、男性はギター、女性はピアノに関心を持っている事がわかる。ラワーブは高齢層に希望が多い。ウイグルの伝統音楽に外来楽器を取り入れることも可能だということで、若者が活発に挑戦している。特に、ギター、

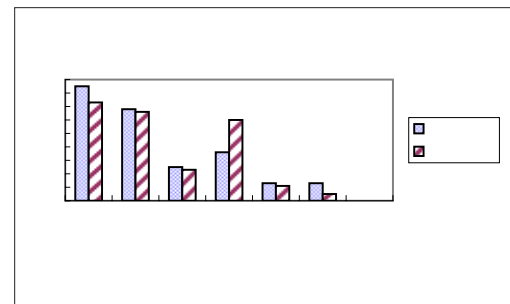
電子ピアノの音色が好まれ、伝統音楽を多彩にしている。最近多くの儀式（結婚式、誕生日のお祝いなど）はレストランで行うことが流行している。電子ピアノやギターを弾ける人が会場で顧われ、高いギャラが払われる。そこで経済的なメリットを考えた人達はこれらの楽器を習っている。ウイグルの音楽を国際的なレベルに高めたい、子ども達を多角的な教養によって育てたいという考えの人達や教育レベルの高い人々は、ピアノを習わせるのが良いと考えている。将来、ますますメディアが発達し国際交流が進めば、外来楽器を習う人の数はさらに増えてゆくことが予想される。

質問XI 他の民族や国々の中でどこの音楽が好きですか？
これも最低2つ示してください。
A・ウズベク B・トルコ C・漢族 D・インド E・アメリカ F・カザフ族 G・その他 ()

この質問に対し、表XI、図XIのような結果が得られた。

Kc

	4	5	6	7	8	9	:		4	5	6	7	8	9	:
S#	S#	S+	S	S%	'	#	#	S#	S&	S%	+	S)	%	S	#
%#	S+	S#)	*	('	#	%#	S#	S&	(S*	&	#	#
&#	S+	S'	*)	'	'	#	&#	S	(S)	'	S'	(S	#
'#	S	SS	*	*	#	'	#	'#	S+	S	(S	#	S	#
(#	%#	S	'	'	#	S	#	(#	S*	S#	('	S	%	#
	+	(+	%	&	S&	S&	#		*&))	%&)	#	SS	(#
	S	(S&	'	+)	%	S+	#						



外国の音楽の中で好まれている音楽の順位はウズベク民族の音楽、トルコの音楽、インドの音楽と続いている。歴史、文化、言語、音楽の特徴などからみると、ウイグル民族とその文化はウズベク民族やトルコ民族に似ている部分が多い。ウズベク民族やトルコ民族の音楽は、ウイグルの音楽より現代音楽の要素も多く取り入れ近代化されている。伝統音楽と現代音楽の混合度が高く、洗練されている。それに言語のニュアンスがとても近いことから受け入れやすい。ウズベクやトルコからの音楽テープなどの輸入が増え、売り上げも増加している。ウイグルのダンサー達がレストランなどで、自分の民族の踊りをウズベクやトルコの音楽のリズムに合わせて踊ることも流行している。これには誰も違和感を感じていない。ウイグルの文化と異なる文化をもつ国の音楽の中では、インドの音楽の人気が高い。この理由を考えると、長い歴史の過程でウイグルはイスラム教の前、8世紀頃までは仏教を信仰していた。その間はインドとの文化交流が盛んだった。さらに、カシュガルはシルクロードの交通路の重要な地点である。インドとウイグル地区は、いろいろな分野でお互いに

影響し合ってきており、音楽もその一部である。インドの音楽とウイグルの音楽は同様にアラブ・ペルシャ系に属するため、ウイグル族にとってインドの音楽は親しみやすい。70年代後半から80年代中頃まででも、インドの映画をビデオテープやテレビで見ることができた。歌や音楽を介して気持ちを伝えることを特徴とするインドの映画は、言葉の意味が分からなくても楽しむことができる。

ウイグル族は漢民族、カザフ民族を始めとする多民族と一緒に暮らしている。それに学校で漢語は必須科目となり、学校教育の中では誰でも勉強しなければならない。今回の結果で25人が漢族の音楽を聴くと答えたのは、漢語で放送される音楽がこの地域で一番多いからであろう。しかし、漢族の文化はウイグル文化にとって異文化であるので、ウズベク、トルコ、インドの音楽ほど多くはないことが理解できる。

アメリカの音楽を聴く人が一番少ない原因は、アメリカの現代音楽情報が少ないからだと考えられる。しかし、最近アメリカのクラブ風の店などでアメリカ式のディスコ音楽を耳にすることも稀ではないので、今後アメリカへの関心が高まっていくことも予想される。

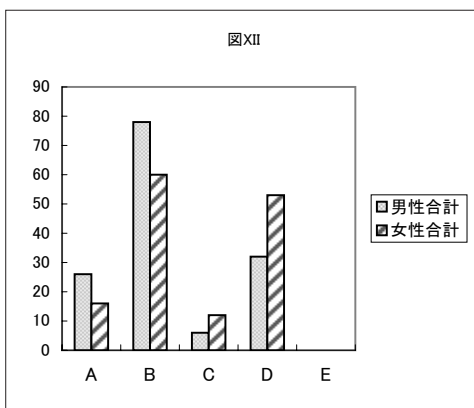
質問XII どんな音楽が嫌いですか？

A・新しく作られた音楽 B・外国の音楽をそのまま使った音楽 C・ウイグル伝統音楽 D・欧米現代音楽 E・その他 ()

この質問に対し、表XII、図XIIのような結果が得られた。

表XII

男性	A	B	C	D	E	女性	A	B	C	D	E
10代	3	20	2	3	0	10代	2	19	2	4	0
20代	3	17	2	5	0	20代	6	10	6	8	0
30代	7	15	1	5	0	30代	4	14	3	6	0
40代	4	13	1	8	0	40代	2	12	1	14	0
50代～	9	13	0	11	0	50代～	2	5	0	21	0
男性計	26	78	6	32	0	女性計	16	60	12	53	0
合計	42	138	18	85	0						



外国の音楽をそのまま真似た音楽を嫌う人が最も多い。その次は欧米の現代音楽となっている。近年、ウイグルでは外国（特に、ウズベク、トルコなど）の歌の歌詞だけ変えて、音楽をそのまま真似して自分の作品として発表することが数多く見られるようになってきている。これには多くの人が反感を持っている。このような状況を生む主な原因は、作曲のレベ

ルが低く、また法律によってこのような状況を制限できないからである。外国の音楽情報が少なく、音楽出版社のコメントもないため、新しい音楽が発表された時は借用であることに誰も気がつかず、後から発見されることが多い。この状況がこのまま続くと、将来のウイグル音楽市場の展開に悪い影響を与える恐れがあると思われる。

全世界で人気の高い欧米現代音楽を嫌う人の数が多い。特に40代以降に顕著となっている。その原因は、まず、欧米音楽の中でのロック音楽はウイグル族には親しめない。特に年輩者には音がうるさいと感じられる。また、ウイグル族はイスラム教を信じるため、多くの人が欧米音楽の中の女性の衣服、動作などが宗教的に問題があると感じている。

16%は現在作られている音楽を嫌っている。現在ウイグルで、音楽は専門的作曲家と非専門的作曲家によって作られている。専門的作曲家達はヨーロッパの音楽理論に基づいて伝統音楽の要素を取り入れて作曲している。これはウイグル族にとって新しいものであるが、あまり人気を得てはいない。一部の人はこれらの曲が伝統音楽を壊していると感じているのかもしれない。非専門的作曲者は音楽理論を基準にせず、自分の感性を基に作曲している。この場合、ポピュラー音楽が多いが、外国の音楽に比べると質が低いので、あまり好まれていないと思われる。

伝統的な音楽を嫌う人も7%はいる。これは30代までの若年層に多いが、伝統音楽を古いと感じ、リズムも現代社会の音楽に合わないと考え、社会の現代化とともに音楽も発展するべきだと思っているのだろうと考えられる。

結果と考察

新疆ウイグル自治区の人口の多くを占めるウイグル民族、その現在の音楽生活はどのようなものか。その実情を知るために、本稿では、カシュガル市に住んでいる男女各年齢層250名のウイグル族を対象としてアンケートを実施した。人々の音楽に対する趣向や意見、良く使われているメディア、楽器、教育などについて、年齢別に集計し、さらに現代ウイグル族の教育状況と文化の状況について分析した。ここから次のような点が抽出される。

- ・人々が好んで聴く音楽は伝統音楽であるが、若い年齢層ではポピュラー音楽も好まれている
- ・ケーブルテレビの発達とともに、テレビが最大の音楽メディアになってきている
- ・音楽を学習した場合は、学校と答えたケースが多い
- ・楽器は民族楽器のドゥッタが親しまれているが、外来楽器のギター、ピアノ、アコーディオンなども取り入れられている
- ・音楽に関連する機器の所有はカセットレコーダが多いが、VCD（ビデオCD）も増えてきている
- ・自民族のアーティストが最も人気がある
- ・外国の音楽としては、民族的に近い、ウズベク、トルコ、インドが好まれている

これらの結果を見ると、人々が良く聴く音楽、演奏できる楽器や習いたい楽器、子どもに教えたいと考える音楽、行きたい演奏会、好きなアーティスト等のどれにおいても、伝統音楽の要素が強く見られる。また、好きな外国音楽の中でも、様式が共通しているウズベク、トルコ、インドなどの国の音楽が好まれている。これは現代のウイグル族の中に伝統音楽への趣向が強く存在している事を示している。ウイグル族の歴史の流れから見ると、ウイグル族の交流相手はどこよりも中央アジアが一番長く続いている。歴史的に見て、近代においては欧米や他のアジア地域との交流は少なかった。中央アジア以外の地域との活発な交流は、ここ数十年来のことである。現代の情報化社会の中で交流範囲は広がってきているが、長い歴史過程で形成し親しんだ事を、短い時間のうちに急激に変えることは難しい。急速に変わりつつある現在のウイグル社会においては、大量に入って来る外来文化や音楽に対しての警戒もあるのではないかと。だが、この新たな影響を止めることはできない。多くの若者は、自分の伝統音楽と同時に現代的な音楽にも興味を持っている。彼らは様々な音楽理論や外来の楽器を習って、これを伝統音楽へ持ち込むという方向へ向っている。トルコ、ウズベク等のポピュラー音楽をモデルにして、雰囲気は伝統音楽に近いウイグルポピュラー音楽なども生まれている。これらはウイグル社会に徐々に影響を与えてきており、ウイグル音楽を豊かにしている。さらに進歩的な人々は国際的に普及したピアノ、バイオリン、ギターなどの楽器を子どもたちに習わせている。これらの新しい影響が入ってきて、伝統的な音楽に組み込まれ、同時に音楽の内容にも影響を与えつつある。

ウイグルにおけるメディアや教育の変化、経済的環境の移り変わりから、現代ウイグル音楽にとって、徐々に近代化の環境が整ってきていることがわかる。例えば、情報手段の発達によって、現在では全世界の情報がより早く、より広範囲に伝達されるようになってきた。また教育レベルの向上に伴って、作曲家も音楽愛好家も水準が上昇している。文化施設、音楽設備が整い、観光業が発展し、生活を楽しく過ごす環境が充実してきている。メディア製品の質が向上し、音楽を鑑賞する環境も快適になってきた。音楽市場の発展は経済の急速な成長にもつながっている。経済状況の改善により生活水準も上昇し、今まで食べることで精一杯だったような家族は徐々に減り、音楽の楽しみへも投資できるようになった。AV製品を購入し、音楽を習ったりメディアを購入できるようになってきた。この状況は1990年以前より始まっているものの、北京、上海などの地域に比べると、情報、文化、教育などの面で、まだまだ遅れているところも多く、音楽の分野にも大きな差がある。これらの差がなくなるにはまだ時間がかかるだろう。

注

1. ئۇيغۇر 12 مۇقامى توغرىسى
2. 中国語で、万桐書の『維吾爾族樂器』人民出版社(1986年)、杜亜雄の「中国少数民族音樂」中国文聯出版公社

(1986年)、周菁葆の『絲綢之道的音樂文化』烏魯木齊：新疆人民出版社(1987年)がある。またウイグル語で出版された文献は、アブドシュクル モハマドイミンによる『ウイグルクラシック音楽12ムカームについて』(1980年)、サイフツチン アジズの『ウイグルムカームについて』(1992年)、モハマドジャン アフマッドの『12ムカームについて』(1992年)、ノルモハマド サイドの『ウイグル12ムカームのメロデーの特徴』(1995年)、アブドシュクル モハマドイミンの『ウイグルムカーム宝庫』(1997年)『新疆の唐時代における歌 舞踊芸術』(1980年)などの意味となる。これらは、原語(ウイグル語)ではそれぞれ、

(1980)	« ئۇيغۇر كلاسسىك 12 مۇقامى توغرىسىدا »	ئابدۇشكۈر مۇھەممەت ئىمىن
(1992)	« ئۇيغۇر مۇقامى توغرىسىدا »	سەيپىدىن كەزىزى
(1992)	« 12 مۇقام توغرىسىدا »	مۇھەممەت تىجان ئىمىن
(1995)	« ئۇيغۇر 12 مۇقامىنىڭ مىللىيەت ئالاھىدىلىكى »	ئورۇنمۇھەممەت سايىت
(1997)	« ئۇيغۇر مۇقام غەزەبىسى »	ئابدۇشكۈر مۇھەممەت ئىمىن
(1980)	« تاڭ سۇلالىسى دەۋرىدىكى شىنجاڭنىڭ ئاخشا-تۇسول مەدىنىيىتى »	ئابدۇشكۈر مۇھەممەت ئىمىن

のように表記される。

3. A.パーシャ、エーション (ウイ) B.マイケル・ジャクソン (米) C.アブドラ・アブトラヒム (ウイ) D.ベートーヴェン (独) E.アブルズ・シャクル (ウイ) F.アルケン・クトベデン (ウイ) G.ハキーム・アサン (ウイ) H.アスカ (ウイ) I.ウマルジャン・アリム (ウイ) J.シャフザド アンサンベル (ウズ) K. 鄭莉君 (台湾) L. エリベス (米) M.ヤニ (米) N.レチャド・キライデマン (仏) O.ジャエル・ブルハン (ウイ)

*ここで、ウイ=ウイグル、ウズ=ウズベク。

文献

- Manuel, Peter Lamarche 1989 Popular Musics of the Non-Western World: An Introductory Survey. Oxford University Press, Inc. ピーター・マニユエル (中村とうよう訳) 1992 『非西欧世界のポピュラー音楽』, ミュージック・マガジン.
- Nettl, Bruno 1985 The Western Impact on World Music: Change, Adaptation, and Survival. New York, Dchirmer Books. ブルーノ・ネトル (細川周平訳) 1989, 『世界音楽の時代』, 勁草書房.
- 綾部恒雄他 2000 『世界民族事典』, 弘文堂.
- 田畑久夫他 2001 『中国少数民族事典』, 東京堂出版.
- 中国国务院報道弁公室 2003年5月 『新疆の歴史と発展白書』.

